

# 組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

組織	温暖化・里山対策室
職	室長
氏名	新 広昭

<b>組織の使命・役割</b>	<b>何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か</b>
<p>地球温暖化問題は地球規模の課題であると同時に、県民一人ひとりの暮らしと密接に関連している身近な課題でもあり、県民、事業者、行政(国、県、市町)が協働した積極的な取り組みが必要となっている。</p> <p>こうしたことから、県民、事業者、行政それぞれの立場で二酸化炭素の排出抑制に向けた取組を強化し、県内全域に普及していく必要がある。</p> <p>また、人の手が加わることにより、生きものにやさしい自然環境が維持されるという里山里海の本来の特性を踏まえ、県民、企業、NPOなどの多様な主体の参画による里山里海づくりの推進を通じ、多様な生きものが生息・生育する、いのちにあふれた里山里海を未来に継承し、人と自然が共生する持続可能な社会の構築を目指す。</p>	



<b>組織の目標</b>	<b>使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値はどのような水準か</b>					
<b>(定性的目標)</b>	<b>何をどのような状態にしたいか</b>					
<p>① 県民、事業者、行政が一体となって温暖化防止活動に取り組み、地球環境を保全すること。</p> <p>② 地域住民や行政だけでなく、都市住民やNPO、企業など、多様な主体が参画する新しい里山里海づくりを推進するための仕組みづくりや支援などの取組を推進する。 (多様な主体の参画による新しい里山里海づくり)</p> <p>③ 県民が生物多様性や里山里海から得られる恵みについて理解し、これらに配慮した生活を送ることにつながるよう、身近な自然である里山里海をテーマとしたイベント等を通じた普及啓発や里山里海での体験学習の機会の提供などを推進する。 (生物多様性の恵みに対する理解の浸透)</p>						
<b>(定量的目標)</b>	<b>具体的な指標、目標値を設定する</b>					
	<b>目標とする成果指標</b>	<b>現行値</b>	<b>年(度)</b>	<b>目標値</b>	<b>年(度)</b>	<b>目標値の設定根拠(他県との比較など)</b>
	① 二酸化炭素排出量	6,376千t	22年度	8,015千t	22年度(※1)	石川県環境総合計画
	② いしかわ版里山づくりISO認証団体数	200団体	25年度	215団体	26年度	
	③ グリーンウェイブ参加団体数(※2)	31団体	25年度	30団体	26年度	

(※1)H23以降も削減に向け努力

(※2)グリーンウェイブ:国連の生物多様性条約事務局が、国際生物多様性の日である5月22日に、世界各地の青少年の手でそれぞれの学校などで植樹を行うことを通して、生物多様性の大切さを理解してもらおうと考えている運動



<b>26年度に重点的に取り組むべき課題</b>	<b>左記の具体的な内容を記載する</b>
① 県民、事業者等による二酸化炭素排出抑制の取り組み支援	<p>① 家庭や地域、学校での省エネ・省資源の取り組みの推進(いしかわ版環境ISOの普及、エコチケット事業・クールシェアの推進など)</p> <p>② 住宅の省エネ化の推進(住宅の省エネ設備導入の助成、エコ住宅アドバイザーの認定、いしかわ住まいの省エネサポート制度の運用など)</p> <p>③ 企業エコ化の促進(事業者版環境ISO、エコデザイン賞、エコドライブ推進事業所の認定など)</p>
② 多様な主体による里山里海づくり	<p>企業、NPO等の多様な主体の参画を促進するため、県が里山保全活動等を認証し、活動を支援するとともに、NPOや地域団体等による森づくり活動を支援する。</p>
③ 生物多様性の恵みに対する理解の浸透	<p>生物多様性や里山里海の恵みの理解を進めるため、学校教育等での里山学習や里山里海をテーマとしたイベント等による普及啓発を進める。</p>